



「秋の叙勲」受章 おめでとうございます

平成29年「秋の叙勲」受賞者が発表され、地元大東地区から地方自治功労で元雲南市議会議員の光谷由紀子さんが旭日双光章を受章されました。

そのご功績に敬意を表し心からお祝い申し上げます。

光谷さんは昭和62年5月に地域住民から推されて大東町議会議員に当選以来、平成16年10月に町村合併するまでの5期17年5ヶ月の間、また、雲南市誕生後も雲南市

議会議員として2期8年間、町・市の振興、発展に尽力し、地方自治発展のため多大な貢献をされました。

特に雲南市議会教育民生常任委員会委員長などの要職を歴任され、保健・医療、地域福祉の充実に強い信念をもって取り組まれました。

受章にあたり光谷さんより「この度の受章につきましては、沢山の皆様のご支援とご指導があったからこそと感謝申し上げます。少しでも恩返しができるよう皆様と共に地域の発展、振興に努めてまいります。今後とも宜しく願いいたします」とコメントをいただきました。



交通安全功労者として表彰されました



11月10日、加茂ラメールで行われた島根県交通安全県民大会において、大木原の小山保雄さんが、交通安全功労者として県警本部長と県交通安全協会長連名による表彰を受けられました。これは昭和58年に交通安全協会大東西部支部理事就任以来永年にわたり地域社会における交通安全の向上に貢献された功績が認められたものです。特に、町内で交通量が一番多く、交通死亡事故も発生した県道玉湯吾妻山線と県道松江本次線バイパスとの交差点で、10年前から朝の通学時間帯に通学児童、生徒へのあいさつ掛けと交通安全見守り活動を続けておられます。雨風や雪の日も含め、毎朝交差点での黄色い交通安全ジャケットと帽子姿の小山さんはお馴染み

のことと思います。「(今後も)元気な間は活動して、交通安全に貢献したい」と意欲を語られました。



火災想定訓練で実践力アップ。



秋の全国火災予防週間(11月9日~15日)を前にして、消防団大東分団と佐世分団の『合同林野火災想定訓練』が11月5日に大東高校付近で実施されました。大東分団では小型ポンプ3台と団員35名が出動し、無線で連絡を取りながら連携してポンプで神田橋付近の赤川から取水し、1本20メートルのホースを27本繋いで火点に向けて放水するなどの訓練で近隣消防団員との連携強化、災害対応能力の向上が図られました。

平成29年度全国統一防火標語は、『火の用心 ことばを形に 習慣に』です。これから、少しずつ寒さ

が厳しくなる季節となります。空気が乾燥し火災の発生しやすい状況ですので、火気の取扱いには十分に注意しましょう。



今年の地区民体育大会 総合優勝は**光チーム**でした

10月1日に第71回大東地区民体育大会が大東小学校グラウンドで開催され、まずまずの秋日和の下、17チームが年代別バラエティ継走や綱引きなど12種目に熱戦を展開しました。

なかでも昨年の70回記念大会から採用されたラッキーキャッチでは、親子ペアの悪戦苦闘する姿が微笑ましく感じられました。

大会は光チームが8年ぶりの総合優勝を果たし、2位には大木原チーム、3位には西町チームが入賞しました。また、応援の部では新庄、金成、河北チームがそれぞれチームワーク賞、ユーモア賞、パフォーマンス賞を受賞しました。



加多神社の秋のお祭り (例大祭)

加多神社総代会 会長 高橋 健

大東町古城にある加多神社は、出雲国風土記や延喜式神名帳にも記載された1千年以上の歴史を持つ由緒ある神社です。加多神社では年間を通して様々な祭典が執り行われますが、中でも毎年10月15日に行われる「例大祭」は最も大きなお祭りです。午前10時に神職、氏子総代、来賓がお祓いを受けた後、神社拝殿で祭典式が行われお祭りが始まります。祭典式の次には神職により七座の舞が奉納されます。七座の舞はお昼を挟んで午後からも演舞され、剣を使った勇壮な舞も行われます。午後4時からは神事(神幸式)が始まります。この神事は、歴代に渡って引き継がれている「神輿昇」と呼ばれる奉仕者に担がれて、氏神様が御旅所にお出かけになる1年に一度のご旅行です。神輿の前方と後方で氏子総代や崇敬者一同が数々の飾り物や持ち物を持ち、神輿と一緒に行列します。氏神様をお慰めすると共に氏子のくらしの様子をご覧になるというこの行事は、古い歴史を持つ貴重な神事として大切に受け継がれています。



元気はつらつ とした レクリエーション大会

大東明寿会のレクリエーション大会が10月19日に大東体育文化センターで開催され、12の単位クラブチームが、ゲートボールリレーや玉入れなど8種目の競技に熱戦を繰り広げました。

日頃の運動不足も顧みずハッスルする選手もいて、応援席や大会本部もヒヤヒヤの連続でしたが、最後は皆さん笑顔で無事大会が終了しました。

大会結果は北町北寿会が優勝、2位が南本町千歳会、3位が田中明寿会となりました。

また、参加選手の中で最高齢の方に贈られる最高年齢選手賞には、ゲートボールリレーと順送球の2種目に出場された、光明寿会の鳥谷秀夫さん89歳が選ばれました。

ゲートボール
リレーに出場の
鳥谷さん



新庄南地内で ヨズクハデを 見つけました。

ヨズクハデとは刈り取った稲束を天日干しする為に立てられるハデで、稲束を掛けた姿がヨズク(フクロウ)に似ているのが呼び名の由来と言われています。国内でも大田市温泉津町の西田地区にしか伝承されていない伝統技術であり、大田市の有形民俗文化財に指定されています。



まなびの泉

「よーい、スタート」 秋晴れのもと、園児たちの歓声が大東こども園に響きました。

PTA会長 糸川 博人

10月15日、園名が大東幼稚園から大東こども園に変わって初めての運動会を行いました。天気が不安定で、当日まで会場を園庭にするのか体育館にするのか決まっていなかったのですが、園児たちの思いが通じたのか（テルテル坊主も効いて?!）予定通り園庭で開催できました。今回の運動会は、園児たちで決めた「うきうき運動会」というサブタイトルが付いていますが、そのサブタイトル以上にうきうきが沢山ある運動会でした。

スタートは「こんちゅうたいきょくけん」の可愛い体操から始まり、クラス毎のプログラム、親子や祖父母と行う競技など盛りだくさん。私が特に印象的だったのは、やはり子どもたちの成長でした。年少さんは自分たちが普段園でやっている降園準備を競技に組み込んだもの、年中さんは園庭の遊具や自転車を利用したプログラム、年長さんは更に高度な梯子渡り、縄跳び、跳び箱を披露。園児たち一人ひとりがたくましく成長していると感じました。最後に保護者が自分の子どもに手作り金メダルを授与。キラキラ輝くメダルを首に掛けられた園児たち。その笑顔はメダル以上に「キラキラ」と輝いていました。

このような素敵な運動会ができましたのも、先生方や園を取り巻く地域の皆様のご理解ご協力があればこそと感謝しています。今後も園児たちの健やかな成長の為にご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。



読書を楽しむひとときを 子どもたちへ

子ども読書会指導員 蘆田 八重子

大東地区では、子ども読書会を東町公民館、駅前公民館、大東図書館（今年度は改築工事のため大東市民体育館）の3ヶ所で開いています。毎月一回、第2土曜日の午前中に1時間程度2名ずつの指導員で行っています。

ここでは体育館で行っている読書会の様子を紹介したいと思います。参加している子どもは、子ども園児から4年生までの10人です。

読書会では、まず最初に子どもたちが1ページずつ順番に音読をします。この本は前回、指導員から子どもたちに渡され家へ持ち帰って読んできているものです。年度当初、不安そうに小さい声で読んでいた子ども、だんだん大きな声で読めるようになってきました。

次に指導員が数冊の絵本を読んだり紙芝居をしたりします。じっと絵を見つめ、身を乗り出すようにして聴いてくれる時が最高です。それには子どもたちに合った本を選ぶことが大切ですが、なかなか難しく悩むところです。これからも読書会が終わった時に「楽しかったなあ」と思ってもらえるように頑張っていきたいと思っています。

子ども読書会には年度の中途からでも入れます。お子さんに声をかけていただけませんか。申し込み先は大東図書館です。



発想や製作技術・努力で全国大会へ

昨年の中学生ロボコン全国大会で、16強という県内初の快挙を成し遂げた大東中学校クリエイティ部を訪ねてみました。今年の11月19日の県大会、12月の中国大会、1月の全国大会を前にして、部員や顧問の永瀬先生がロボットの性能チェックや、操作練習、そして勝つための戦術を練っていました。出場する活用部門のルールは、透明プラカップでできた高さの異なる7箇所のゴールに90秒間ボールを入れ合い、多い方が勝ちだそうです。相手のゴールしたボールを取り除くのもOKとのこと。県大会の会場は大東中学校で10名の部員が2人ずつ組になり5台のロボットで挑戦するそうで

す。昨年2年生で高橋潤さんと初出場ながら見事な成績を収めた藤井宏樹さんは「昨年の経験を生かし、全国ベスト8に入りたい」と意気込みを語ってくれました。

この創造アイデアロボットコンテストは、生徒たちの人間性の教育そして、工夫し創造する能力の育成に力を注いだもので『勝てればいい』という得点至上主義の審査ではないとのこと。みなさんの健闘を祈ります。



還暦から古希に

同窓会名
「どげな会」
開催

(事務局長 藤原 洋二)

年1回は必ず故郷に帰省しているが今回は同窓会で
の帰省。

生を受けてから各年齢に達すると祝い事(祝いの言
葉)が多々ある。今回それに該当し10月22日玉造温
泉で「古希」祝いで小学校の同窓会を開催していただ
いた。平成20年1月の「還暦」以来の小学校卒業生
の集まりである。

長寿の祝いを検索してみると還暦(61歳)、古希
(70歳)、喜寿(77歳)…白寿(99歳)、紀寿
または百寿(100歳)、茶寿(108歳)、皇寿
(111歳)、大還暦(120歳)、天寿(250歳)と
あるが、古希の由来は中国唐代(618年-907年)の
詩人・杜甫(とほ)の詩である曲江詩(きょっこう
し)の詩句にある「酒は債尋常行く処にあり、人生七
十古来稀なり」【酒代のつけは私が普通に行くところ
には、どこにでもあるが、70年生きる人は古くから
稀である。】が出典とのこと。このとき同時に他のお
祝いの言葉ができた訳ではなく、古希以外の言葉は後
に加えられたようである。今年は2017年、今では
70歳は稀ではない。

前置きが長くなったが、当時の6年生の生徒数約
160名で4クラス。前回の還暦での参加者は50名で
あったが今回は34名と減っている。会長の挨拶、亡
くなった方19名の方への黙とう、懐かしい校歌斉唱
後、皆さんと元気な姿でお会ってきたことに感謝し、
今後ますますご健勝であることを願い乾杯で開演。

オープニングは同窓
生の島根県の民謡。
(写真)

この年齢になる
と、各自生き方は
様々でそれぞれのリ
ズムがあるようだが、やはり自分の生
きがいを見出して



やっておられる。しかし地元にながら参加されない
人がどうしておられるか気になる。欠席の葉書から
は顔が見えないため何とも言えず想像するしかない。
葉書の返事のない方は余計に気になる。良い方に解
釈して談笑に集中。小学校当時の姿と重ね合わせるが、
思い出ず情景は少ない。

大東に住んでいる人は何らかの都度顔をあわせる機
会は多いと思うが、大東を離れている者はこのような
機会での再会しかなく、年齢を重ねるにつれて思いが
強くなる。おそらく心底には次いつ会えるかわからな
いという不安があるからだと思う。が今回また一区切
りがついた。

今年の2月に有馬温泉での「ミニどげな会」が山陰
の大雪で島根からの移動が出来ず、また今回台風21
号で島根に来られなかった方もいる。2月のリベンジ
で来年有馬温泉での再会予定?「年齢を重ねるのは仕
方ないが年寄りになる必要はない」と友達から聞いた
が、その源の一つに、この会が位置付けられるように
願う。

年齢での祝いで次に迎えるのは喜寿。信貴山にある
朝護孫子寺(ちょうごそんしじ)に掲示されている聖
句に「古希:70歳でお迎への来た時は『まだ早い』
と云え」「喜寿:七十七歳でお迎への来た時は『せ
く
な老楽これからよ』と云へ」と。ちなみに「白寿:九
十九歳でお迎への来た時は『頃を見てこちらからボツ
ボツ行く』と云へ」とある。

皆さん、焦ることもなく、急ぐこともなく。のんび
りと健康に注意しながら歩いていきましょう。



にがおで
こんにちは!



大東地区の皆さん「こんにちは」 ミュースエコー指揮者 白根三代子

私は、去る6月10日(土)出雲大東駅で開催された第1回「大東ほたる祭」特設ステー
ジイベントで「ババコン」ファッションモデルをさせていただきました。その時、とにかく
はつらつとした若者に吸い込まれそうになりました。そして、楽しかったし、素晴らしかった
です。「ババコン」は、世代を超え、人と街が繋がり、若者のチャレンジを応援できる取
組だったと思いました。これからの次代を担ってくれる若者達をみんなで応援していただき
たいものです。

さて、大東地域交流センター生涯学習運営委員会開催の女性講座「みんなで楽しく歌いま
しょう」に参加させていただいています。参加者の皆さんには、毎回笑顔いっぱい迎えて
いただきます。そして、明るく生き生きとして、心から楽しんで過ごしていただきます。そ
のような積極的な取組の姿は、大東公民館時代からの長い活動の中で培われたものだと思っ
ています。

郷土の暮らしと文化

大東八景『大木原の青田』

大東の歴史を探ねる会 芦田 道昭

大東のなつかしい風景や人々の生活を写した写真がありましたらご提供ください。
(編集委員会)

近世の大東は、赤川が連担地北側を海潮から西に向かって流れ、清田川が宗専寺付近から連担地南側を西進し阿用川に合流していたので二つの川に挟まれた地域でした。そのため、赤川、清田川、阿用川はたびたび氾濫し耕地や人家を流す大水害を起していた。

江戸時代（元禄の頃）、先人によって①赤川の幅員を拡げ②清田川を赤川に合流させ③旧清田川流域と阿用川下流部周辺を埋め立てる河川改修工事が行われた。その結果、水害が減少すると同時に池沼・荒れ野の地であった大木原は広大な耕地に生まれ変わった。

大木原は安永年間（18世紀末頃）、僅かに4戸という記録があり、それから昭和30年代半ばまでは、17～18戸の民家が散在する長閑な田園地



※写真中央部に阿用川橋、中央やや右奥に高麻山が確認できる。

帯であった。明治時代末に、『大木原の青田』として「大東の八景」のひとつに挙げられるほどの豊かで美しい水田の広がる風景は大変貌した。平成16年から始まった「土地区画整理事業」が完工されたからである。

写真は、約100年前（大正時代初期）のもので野田原から西方が写っている。大木原から現在の西町付近は広大な水田地帯であったこと、また大木原では道に沿って家屋が点々と見られるが、西町から駅前付近にはほとんど見あたらないことがわかる。

この人に聞く

ふじはら じゅん
藤原 淳さん
(北町在住)



笑顔の中に優しい眼が微笑みます。天気さえ良ければじっとしてられない。とにかく働きます。一日24時間では足りないという。そんな藤原淳さんを訪ねました。

Q いつも笑顔が絶えませんか？

学校卒業後大手自動車販売会社に就職、42年間営業畑で勤務、そこで「笑顔」と「挨拶」の大切さを痛感しました。そのお陰でいい思いを沢山してきました。これは、自然と出てくるもので特に意識しているものではありません。

Q 大東明寿会副会長、また、北町北寿会会長としてご活躍中ですが老人会若手リーダーとしてのポリシーは？

何事にも率先して"やってみる"こと、座右の銘は、「前進!!」です。若い人達の加入を促進するためにコミュニケーションを大切に一致団結し、楽しい老人会にするため、私自身が動き回ります。また、自分で手掛けた「北寿会ニュース」（今年度既に11回）を発行し、会員の皆さんに各種日程・活動内容・結果等報告しています。将来を託す子どもたちには、名前を覚え「なまえ」で呼ぶようにしています。

Q 大東小学校ふるさと学習でスイカ提灯作りの指導等をしておられますが、こうした伝統行事継承への思いは？

2年生を対象に毎年七夕祭りの由来・歴史を話しています。また、今年から保育園にも出向いています。キラキラ輝く子どもたちの瞳は嘘をつきません。子どもたちからお礼の手紙をもらったり、寸劇発表会へ招かれたり感激もひとしおです。

Q 余暇の過ごし方は？

晴耕雨読、散歩が基本パターンです。10年かけて蔵書2,000冊読破を目標にしています。天気さえ良ければ野良仕事。収穫した野菜は、子ども・兄弟・親戚に送ります。

カラオケは三橋美智也、小林旭の歌が得意、故郷を思い、友を慕い、人の心を揺すります。最後はお決まり、千昌夫の「星影のワルツ」で締めくくる。

今日も朝早くから赤川土手をトワイライトエクスプレス「淳さん号」が走ります。丸いオイル缶を積んだ軽トラを見かけたら手振り等してあげてください。きっと真っ黒に日焼けしたタオルねじり鉢巻おじさんの笑顔が返ってきますよ。